第３回
台東区基本構想策定審議会
小委員会第１グループ

日時　平成３０年１月１１日

会場　台東区役所１０階１００３会議室

台東区企画課

○出席者	委　員	有　村　久　春	委　員	西　　智　子
（９人）	委　員	伊　藤　正　次	委　員	太　田　雅　久
	委　員	小　坂　義　久	委　員	石　塚　麻梨子
	委　員	山　藤　弘　子	委　員	峯　岸　由美子
	委　員	石　原　喬　子		

○欠席者	委　員	黒　田　　収
（１人）		

○事務局	企画課長	前　田　幹　生
	人権・男女共同参画課長	古　屋　知　世
	都市交流課長	段　塚　克　志
	区民課長	飯　田　俊　行
	子育て・若者支援課長	三　瓶　共　洋
	子ども家庭支援センター長	川　口　卓　志
	庶務課長	岡　田　和　平
	学務課長	山　田　安　宏
	児童保育課長	佐々木　洋　人
	放課後対策担当課長	福　田　兼　一
	指導課長	屋　代　弘　一
	教育改革担当課長	小　柴　憲　一
	生涯学習課長	小　川　信　彦
	スポーツ振興課長	廣　部　正　明
	中央図書館長	齋　藤　明　美

（午後７時００分　開会）

１．開会

○委員長

本年もよろしくお願いします。それでは定刻となりましたので、これより第３回台東区基本構想策定小委員会第１グループを始めたいと思います。今日は夜遅い時間にもかかわらず、ご多用の中、お集まりいただきありがとうございます。開会に先立ちまして、本日の配布資料および委員の出席状況について事務局からご説明お願いします。

○事務局

―配布資料及び委員出席状況の報告―

○委員長

ありがとうございます。事務局からも大勢の担当者がおいでいただいていますので、審議を進めたいと思います。本日の傍聴についてですが、傍聴の希望者はいかがでしょうか。

○事務局

本日は１名の方の希望を受け付けています。

○委員長

傍聴についてお諮りします。小委員会でも審議会と同様に原則公開となっていますので、傍聴を許可したいと思いますが、いかがでしょうか。

（異　議　な　し）

○委員長

異議なしという声ですので、傍聴を許可したいと思います。それでは審議に入りたいと思います。

２．議題

（１）各分野の 20 年後の望ましい姿（案）

〇委員長

これより議題に入りたいと思います。議題（１）、各分野の 20 年後の望ましい姿（案）についてです。本日はこれまでの小委員会の審議の集大成ということで、子育て、教育、生涯学習、パートナーシップの各分野の 20 年後の望ましい姿を決定してまいりたいと思っています。分野ごとに区切らせていただきますので、皆さんからご意見をいただきながら審議したいと思っています。

それではまず事務局から 20 年後の姿についてご説明をよろしくお願いします。

〇事務局

―資料１～４について説明―

＜子育て分野＞

〇委員長

ありがとうございました。今事務局からそれぞれ４つの分野についての主な意見と合わせて、20 年後の具体的な姿を言葉にしていただきました。それでは、これらの分野について審議をいただきたいと思います。一つずつ区切っていきたいと思いますので、最初に子育ての分野から、ご意見を言っていただければと思います。よろしくお願いします。

〇委員

事務局で 20 年後の望ましい姿の案をつくっていただき、それについてこれから様々な意見等を交わしていくのですが、その前に今後の流れについて、一度確認をしたいと思います。

今日の第３回小委員会で、各分野における 20 年後の望ましい姿の案について審議していく、その後、事務局で基本目標の構成、文章案、将来像案、説明文章案を検討し、議会に臨むという流れだと思います。この 20 年後の望ましい姿をこれから一つずつ議論していくのですが、このような簡潔な文が望ましいのか、それとも例えばもう少し具体的なものが良いのか、そこはどうお考えなのか、その辺がよく分かりません。

〇事務局

事務局からお答えします。今３つに分かれた各小委員会で、同じような作業を各分野でやっていただいているのですが、それを一度審議会全体の中で、この 20 年後の望ましい姿、それから以前も一度ご説明しています基本構想の体系、それから将来像についてどのようにしていくか、まず意見交換を全体でやっていただくことを考えています。

委員からご指摘のあった、どのような体裁になるのかですが、やはり基本構想ですので、あまり個別具体的なものではなく、より大きな 20 年後の目標になるような姿を描けるよう

なものにしていきたいと事務局としては考えています。これまでの審議会の中で、具体的なご提案やご意見をいただいている部分については、来年度策定を予定しています長期総合計画に反映させながら、具体化につなげていきたいと考えているところです。ご提示している文案がそのまま基本構想の文案になることではないのですが、このようなイメージの姿を目指して基本目標等を設定して、整理をしていきたいと考えています。

〇委員

分かりました。やはり基本構想ということで、大きなテーマで考えていきたいと思います。この５行の文案をざっと見たときに、例えば「環境」という言葉が出てきます。どのような環境が良いのか、それは「子どもを産み育てられるという環境」ということだと思いますが、例えば「豊かな環境」など、形容詞があったほうが良いと思いました。

それから全体的に、この子育て分野を含めてですが、台東区の基本構想をつくるわけですから、もっと台東区らしさをアピールできないのか、難しいとは思いますが、そのようなものも活かせられないかと思います。

それから、台東区区民憲章がありますから、区民憲章の文言との整合性も取り入れていくと良いのではないでしょうか。

〇委員長

全体の流れと文言の書き方についてですが、もう少し具体的な姿が見えたほうが良いということかと思います。基本構想ですので、ある程度の文言の制限があることを理解しつつ、このような文言を入れたら良いのではないかなど、具体的な示唆をいただければありがたいと思います。

〇委員

以前いただいた東京都の資料（『2040 年代の社会状況や都民の活動イメージ』）位までは具体的には考えなくて良いということでしょうか。今日の話し合いはこちらまで落とし込んだ内容を話し合う必要はないということですか。

〇事務局

「20 年後の望ましい姿」というところで、ある程度皆さんが共通に理解できるような内容の文言を事務局としては考えて整理させていただきました。最終的に、将来像や基本目標がある程度固まってくる中の文章には、具体的とまでは言わないにしても、このような未来像が描かれているのではないか、というようなことは文章としては入ってくることはあり得ると思います。今のところ事務局として整理したものは、冒頭申し上げたとおり、今までのご意見を踏まえるとこのような姿になっているということが望ましい姿なのではないか、ということで整理をさせていただいたものですので、必ず東京都のビジョンとイコールと

いう考えでつくっているものではありません。東京都のビジョンはあくまで参考にしていただければということでご理解いただければと思っています。

〇委員

分かりました。これを読ませていただいた時に、例えば「多様化により」という大ざっぱな書き方が、具体的に「技術革新や国際交流の活発化などにより」と表現されたりしていると、区民としては具体的に20年後の姿がイメージしやすくなると思います。そのようなところは意見として出していってよろしいでしょうか。

〇事務局

それは私たちとしてもご意見として参考にさせていただける部分だと思いますので、是非いただければと思います。ただ、「20年後に目指すべき姿」で、例えば「保育所の待機児童がゼロになっています」というような個別具体的なことは書かないというように整理しております。

〇委員

分かりました。ありがとうございます。

〇委員

「子どもたちの笑顔にあふれ、にぎわいと活力のまち」というような、子供たちの笑顔をどう地域で支えるのかというような姿が若干見えない気がします。それは「地域が一体となって」という言葉の中に含まれているのでしょうが、例えば、「20年後に地域に子供たちの声があふれていて、それを多世代が支え合っていくまち」など、動きのある言葉が入っていると、姿はイメージしやすいです。これですと、どちらかというと「行政が支援していきます」ということが前面に出ているイメージになりやすいかと思います。もちろん「将来に夢と希望を抱き、心も体も」と入っていますし、「地域が一体」という言葉も入っているのですが、具体的ではなくても、「地域に子供の声があふれて、それを多世代が支えていくような、地域との連携がある程度根付いている」という台東区の特徴を残すべきところを前面に出した部分を文章の一部に入れていただくと、区民の方もイメージしやすいのではないかという感想を持ちました。

〇事務局

委員から貴重なご指摘をいただいているところですが、実は教育分野でも関連するのですけれども、子供たちがどのような姿になっているのか、まさに今ご指摘のあったとおり、「子供たちの笑顔があふれているということが目指すべき望ましい姿なのではないか」と事務局内でも議論しているところです。他の分野においても、「人」が大きなキーワードに

なっている部分があります。そのようなところをどのように表現していくかというところは、やはり基本目標等を文章化する際に、そのようなご意見を踏まえた形で表現ができるのか、できないのか、その辺は改めて検討させていただきたいと思っています。この望ましい姿は確かに今ご指摘のとおり、行政がこのようなことをやっているというようなイメージを持たれるかとは事務局としても思っているところがありますが、今のご指摘は、この望ましい姿に載せるのか、あるいは基本目標を掲げるときのその意味合いを説明する中に表現していくのか、というところはまだ検討の余地があるのかと思っています。

○委員

「誰もが安心して子供を産み育てられる環境が整っています」というところですが、前回までの話し合いで、とても共感いたしました。「妊娠期から子供が中高生になるまで、一貫して切れ目のない子育て」という形であると「安心ができて台東区に住みたい」となると思います。「移り住んできて妊娠したときからこちらで安心して子供が大きくなるまで子育てできる」、そのキーワードをぜひ入れていただけたら良いと思います。自分自身が子供を育てていて、このような言葉があると素敵だと思いました。

○委員

「地域が一体となって」という言葉の中に、とても大きな意味合いが含まれているのだろうと思います。今委員もおっしゃったように、誰もが安心して産み育てられるという部分で、地域住民だけではなく、行政も住民も全ての方たちが一体となっているということが、子育てをするときの安心材料になってくるのだと思います。その辺のニュアンスがもう少しうまく入っていくと、台東区らしさがもっと出てくるのかという印象を受けました。

○委員長

事務局にもご説明いただきましたが、やはり「人」が主語になるということはとても大事なことだと思います。そのような意味では、「環境が整っています」という言い方をすると、行政側が環境を整えてあげているという、そのようなニュアンスが伝わる気がするので、区民自身が、「私たちがこうなっています」という、あくまでも「私たちが」という主語にするのはどうでしょうか。読んだときにこれは区民中心だということ、区民が主体で動いていて行政や仕組みは後押しなのだという部分が分かるような文章が良いです。私たちがこうなっています、というような言い方があるととても良いという気がしました。

○事務局

今後、第２グループ、第３グループも議論が進んでいくという状況で、この第１グループが先行している状況があります。今回事務局側としては、環境あるいは状況、状態がどのようになっているか、という視点で整理をさせていただいたところですが、今日のご意見を踏

まえて、ある程度第２グループ、第３グループともそろえなければいけない部分も正直ありますので、その辺を改めて調整をさせていただきたいと思っています。

〇委員長

文言として、例えば「誰もが安心して子供を育てられる環境が整っています」というところがありますが、「誰もが安心して子どもを産み育てられる環境に今あります、それでいて安心できています」など、そのように区民の言葉にしてあげると、非常に落ち着くのではないかという気がします。

〇委員

今までの基本構想の仕組みと今回は若干変わったということで、多分このような言い回しにしてあるのだろうと思いますが、何となくしっくりこないところがあると私はずっと思っています。例えば、「環境を整えていきます」というような言い方であるとおかしいのか。そのような言い方も一つあるのかと思いますが、最終的に何か収まらない感じがします。例えば20年後はそうなっていますという言い方なのでしょう。どこか他の自治体でもこのような言い回しをしているのだろうと思いますが、私も最初見たときにすんなりすっと入ってこないところがあって、その辺はどうなのでしょうか。

〇事務局

委員ご指摘のとおり、事務局としても他の自治体の書きぶり、表現の仕方等、色々参考にしています。最終的には、基本構想としてまとめると「そのような姿を目指して、このようなことを目標に取り組んでいく」というような書き方になると思います。ですから、望ましい姿としてはこのような姿になっていれば良いだろう、という考え方で整理をさせていただきました。

〇委員

あるいは「こうやっていきます」「こうします」というような言い回しになってくるわけですね。

〇事務局

やはり基本構想ですので、このような目標を立てて、このようなところに向かっていきます、というような書きぶりになってくると思います。

〇委員長

望ましい姿ですから、人を主語にして具体的にイメージする、そこに施策が関わってくるという意味では、ある程度今ここにあるような文言になってくる可能性はあるということ

ですね。

〇委員

基本的には、今皆さまがおっしゃったことと同じで、「環境が整っています」というと、環境が整っているけれども、実際にそこに到達している区民の方がどれくらいいるのか、実際に区民の方はどのように感じているのか、どのようにサービスを受けているのか、ということが分かりづらいと思います。環境を整えるというのは行政の目標であって、その中でどのように望ましい姿に台東区全体として、あるいは区民の一人一人がなっているかというところは少し違う可能性があります。そこは文章表現を少し整理したほうが良いのかと思います。今の時点ですぐ何か良い案が出てくるというわけではありませんが、「産み育てられています」など、今の表現では少し変かもしれませんが、その辺を先ほど委員長がおっしゃっているように、住民の方主体、あるいは台東区全体としての状態を指すような表現にしたほうが良いのではないかと思っています。

〇委員

これを読んで、「この区で子育てをしていきたい」ともう少し具体的に思えるような内容であると良いと思いました。他の区と比べてこのようなところが良いということをもう少し分かりやすく書いてもらえると良いと思いました。

〇委員

これを読んだときに、少し言葉は悪いのですが、「結構普通だな」と思ってしまいました。ただ、基本構想は具体的なものではないのだと思って聞いていました。やはり先ほど皆さんがおっしゃっているとおり、もう少しパンチのあるというか、台東区らしい何かそのようなところが欲しいというところはあります。

〇委員長

そのような意味で、人中心の言葉を考えようという方向で検討しているわけですが、短い言葉でキャッチコピーがあると良い気がします。例えば我々の第１グループであれば４つのことを検討していますが、それぞれにキャッチコピーがあると良い気がします。それをうまくつくれないものかと思っています。先ほどあったような、「子供の笑顔を見たい」など、うまい言葉があるような気がします。真面目な思考をする人が揃っていて、苦手な部分があるかもしれませんが、商業ベースに乗るというとおかしいですが、そのようなものがありそうな気がします。

〇事務局

繰り返しになってしまうかもしれませんが、基本構想ですので、「おおむね 20 年後、この

ような姿に向かってこのような将来像を描いて、このような目標を立てて行政としては施策を展開していく」というものです。以前も一度ご説明していますが、将来像については、区民に分かりやすいキャッチコピー的なものにしていきたいと考えています。今事務局の案では将来像を一つに絞って、このようなまちにしていきたいというところが区民にも分かりやすくなるようなものにしていきたいと思っています。ですから、20 年後の望ましい姿というのは、このような姿に向かって今後行政としてどのような目標を立てて、どのような施策を打っていくのかというところの前提になるところです。書きぶりとしては、行政が書いたようにしか見えないのですが、人が中心で、区民が笑顔で子育てをしっかりしているなど、そのような形の書きぶりにするのか、それともあくまでこのような状況になっている、まちの様子がこうなっている、という形にするのかというところで大きく意見が分かれるかもしれません。しかし、行政としてはやはりこのような望ましい姿にするために、この後に続く計画等でどのような施策を打っていけば良いのか、というところが描く姿になりますので、このような形の書きぶりになっているというところだけはぜひご理解いただきたいというところです。

ですから、キャッチコピーをここに入れるということが、今後この基本構想にどうつながっていくのか、その辺をどうするかというところは、この時点では事務局としては想定していなかったので、今の時点ではなかなかお答えしづらいところです。

〇委員長

良い説明をいただきまして、ありがとうございました。子育ての分野についてはいかがでしょうか。一応全体の流れの中で確認しておきたいのは、ここの姿を表す言葉の言い回しとしては、区民、人が中心になる、主語になる言葉をできたら考えていただきたいというのが今の意見ですので、可能な範囲で組み込んでいただければありがたいと思います。

＜教育分野＞

〇委員長

では次の教育分野です。

〇委員

台東区らしさという点では、「台東区の多彩な地域資源」という表現は、これまでの取り組みも踏まえて20年後さらにそれを発展させるというものが読み込めるので、とても良いかと思います。

先ほどの子育て分野のところと絡むのですが、「こども」という単語が漢字３文字になって書かれています。次世代育成支援計画は「こども」の「ども」が平仮名になっていて、何となく表現でニュアンスが違うように捉えかねません。むしろあまり漢字を多用しないほうが良いというのが今の全体的なトレンドなのかと思っていますので、単純な表現の問題ですけれども、この「逞しく」というのも非常に勇ましいような感じで見えますので、あくまで表現上の気付いた点ということでよろしくお願いします。

〇委員長

今委員から台東区の地域資源という表現は実情を踏まえて非常に良いのではないかというお話がありました。それからもう一つ「子供達」の表記です。いかがですか。

〇事務局

次世代育成支援計画については、国の法律で子供の「ども」の字が平仮名ということもありますし、「子ども子育て支援事業計画」も平仮名で表記しています。区としてはこの計画をつくっている当初は平仮名で表記をしていたのですけれども、現在では台東区として漢字に統一しているところです。

〇委員

この「ども」は大人の同伴者ではないということで、20年くらい前から「ども」というのを平仮名で書くというのが福祉分野、子育ての分野では浸透していきました。しかし、教育系が「ども」を漢字で表記するようになったことに合わせるところが多くなったというのが現状です。ただ、子育て、福祉分野では、「大人のお供をしているわけではない」ということで、平仮名で書くところがいまだに続いています。ですから、区の姿勢としてどう使うかというのはやはり統一せざるを得ないのかと思います。今回基本構想ですから、考えてあえて全部漢字にしたのだろうと思ったところです。その辺は全員の合意を取るのか、区の方針として打ち出していくのかということは、議論の余地として残るかと思います。

〇事務局

行政の最高指針となる基本構想ですので、表記の仕方については、一定程度区のルールに則りたいと思っています。先ほど「逞しく」ということもありましたが、その辺の記載の仕方については、行政で一定程度のルールの下で書かせていただきますが、どうしてもというような、ここは絶対このような形でないとおかしいのではないか、というところが審議会のご意見としてあれば、区としても検討する必要があるのかと思っています。

〇委員長

今の説明にもあったように、文部科学省や厚生労働省、内閣府などによって使い方が違うようです。この「こども」は学習指導要領ではどちらでしたか。

〇指導課長

記憶が曖昧で明言ができないのですが、漢字での表記ではなかったかと思います。

〇委員長

私の認識でも、今回学習指導要領では、漢字の表記であったかと思います。ですから文科省では今事務局にお話いただいたように漢字表記に統一しているのではないかと認識しています。その辺は色々な状況を見て統一したほうが良いかと思います。ただ経緯があります。いまだに「こども園」は全部平仮名であったと思います。法律上もそうなっているのではないかと思います。そのように違うということを理解しながら使うということが良いかと思います。もう一点あった「たくましく」はいかがですか。公文書規定などでもそうなのでしょうか。

〇事務局

この辺の表記については、改めて確認をさせていただいて、より分かりやすい形にしたいと思っています。

〇委員長

文化庁が言葉に関する問答集を出しています。言葉をどう使うか、確か「たくましい」も出ていたような気がします。もし良ければあたっていただけるとありがたいです。文化庁が言葉の使い方について、ある種の文化的なものも踏まえて、このような言葉が日本として必要なのではないかということで提案をしています

〇委員

こちらの「特色ある教育」というのは、ぜひこのまま入れていただけたら良いと率直に思いました。

それから、この後のパートナーシップや多文化共生のところでも関わってくるかと思いますが、3行目の「逞しく」のあとに「生き抜く」と書いてあります。これを読んだときに、困難、苦しみを克服して生きるというニュアンスを感じました。そのようなネガティブな状況ではない20年後であってほしいと子育てしている者としては思いますので、できれば「自在に生きる」「思いのまま」など、自分の個性、能力を生かして自由自在に生きているなどとしていただきたいと思います。「逞しく」というと、本当に大変な状況で、這ってでも生き抜く、外国人とどうやって協力していったら良いのかなど、とても暗い感じがしてしまいます。私の子供がこの時代に生きていくとき、「自在に、主体的に、自分が選択して生きている」、そのような輝かしい将来をイメージしていますので、できればそれに合わせた形で表現していただければ良いと思いました。

○委員

前回の小委員会でも、台東区の文化について、各委員から台東区が持つ文化資源は独特なもので、全国でトップクラスの資源があるというお話がありました。「台東区の多彩な地域資源」とありますが、ここを「文化資源」に変えたほうが良いのではないかと思いました。せっかく主な意見の中でも文化資源が出ているので、地域資源というよりも文化資源のほうが良いかと、私はそのような感想を持ちました。

先ほどの子育ての議論で、事務局から、基本構想のあるべき姿、望ましい姿についての説明があったので、あまり触れてはいけないのかとは思いますが、あえて触れさせていただくと、やはり何となく堅苦しい言い回しという気がします。これは仕方がないのかもしれませんが、台東区の最上位の計画だからという気持ちも分かりますけれども、もう少し柔らかい、もっと明るいイメージのようなものが良いのではないかと思います。

○委員

文化資源については、芸術的な資源もありますし、いろいろな資源がありますので、単純に「台東区の多彩な資源を」で良いのではないかと思います。それから今「逞しく」の話もありましたが、流れから言うと、「変化に対応し、時代を生き抜く力を身に付ける」という流れのほうが自然ではないかと思いました。

○委員長

具体的な良い提案をいただきました。地域の資源というところは、「文化・芸術」が良いかという気がしています。それは台東区のメインですので、ポンと出しても良いのではないかという気がします。

それからもう一つ「生き抜く」という話がありましたが、これはもともとの意味は生きる力が原点になっています。生き抜く力という非常に活力のあるエネルギー的な言葉になっています。今マスコミで70年前の吉野源三郎さんの『君たちはどう生きるか』が話題にな

っています。あのときの「生きる」というのも、やはりこのようなことを意図したのだろうと思います。吉野さんの文章の中でも、どう生きるか問いかけている割には、どのように生きるかということについては答えてはいません。本人たちに任せているというところがあります。それが生きるということの一つの考え方だろうと思います。「生き抜く」というのは息を抜くことが大事です。ほっとすることが大事だと私は思います。「生き抜く」は息が抜けることにつながると思うので、自在に生きる、思いのままに生きる、ありのままに生きる、そのようなことの表現なのだろうという気がします。20 年後ぐらいはもう少しリラックスして生きる、ストレスのない状況、そのようなことが求められると思います。まとまらない言い方になりますが、この生きる力というのは、ある意味では教育の分野でいうと、ここ 20 年ぐらいずっと国際的にも、この生きる力という言葉がある意味では中心になって動いてきた言葉でもあります。そのような意味では大事な言葉ですので、使い方を考えたいというところです。

それからもう一つは、文章が４行になっているのですが、一気に読めません。もし良ければ「教育の推進により」辺りで切っていただいて、うまく２文にしていただけるとありがたいと思います。そのほうが分かりやすいかという気がします。もし良ければ、ここを工夫していただけるとありがたいと思います。

それから、これは皆さんに聞きたいのですが、最初の言葉のつながりが、「学校・家庭・地域」ときています。順番はこれで良いですか。例えば家庭が先のほうが良いのか、そのこだわりはなくてよろしいでしょうか。教育分野というときは学校を先に持ってきた、これは考え方としては良いのですが、もし子供の年齢的な発達からいうと家庭が先と考えて、全体が家庭を覆うという考え方があれば、家庭を先に持ってくる意味付けはあるかもしれません。これでも良ければ良いのですが、どうでしょうか。他の書類などで私が目にする感じでは、「家庭・学校・地域社会」という言い方があります。地域も社会を入れています。家庭・学校・地域社会という言い方をするフレーズもあるようなので、気になったものですから申し上げました。

○事務局

現行の基本構想の 35 ページをご覧ください。現行の基本構想では「学校と家庭・地域との連携、協力」という書き方をしておりました。この辺の書きぶりはある程度は変えられると思います。

○委員長

議論があったということが大事なことだと思いますので、また検討いただければと思います。

〇委員

「未来を担う子供達が多様化・国際化する社会の変化に対応し」となっているのですが、20 年後の望ましい姿は、子供たち自身が多様な価値観を受け入れるだけの幅を持った人間として育っていると良いと思います。変化していく社会に対応していく、そこを生き抜く力、のようなところが強調されているのですが、やはりグローバル化に代表されるように、多様な価値観をきちんと受け入れるだけの幅のある人間として育っていくというような表現がどこかに入ると良いのかと思います。これであると、周りに合わせるということが前面に出てしまうということが少し懸念される文章だと感じたので、少し検討していただけるとありがたいです。

〇委員

地域資源のところで、「文化・芸術」という、もちろん台東区の特色のある資源ということで特定するのは良いと思います。ただ、それ以外にも例えば人と人とのつながりなど地域社会が非常にしっかりしている、そのようなことも含めての資源だと思いますので、あまり特定しないほうが良いかと思います。かといって、この地域資源というと、やはり文化や芸術の部分が読み込めないかもしれないので、この辺は少し表現を工夫したほうが良いかと思います。あるいはもう少し抽象度を上げるとますます分かりにくくなるかもしれませんが、そのような方向もあり得るかと思いました。

〇委員長

人と人とのつながりは大事な指摘です。

それから、上の主な意見に記載されている「性同一性障害などの様々な問題」という意見がありますが、これは少し引っかかる気がします。「問題」という言葉は修正したいというのが私の意見です。

〇委員

「性同一性障害の方々を受け入れられる体制づくりが課題」というように整理したほうが良いのではないですか。

〇委員長

ということで、ここは文言の修正を少しお願いしたいと思います。

＜生涯学習分野＞

〇委員長

それでは資料３の生涯学習分野です。

〇委員

最近スポーツで、「いつでも・どこでも・誰でも」という表現がとても多くなってきています。ラジオ体操でもそうです。これからもっと軽度な、本当に誰でもできるようなスポーツを台東区も進めていこうという計画もあります。ぜひ「誰でも」という言葉を入れていただきたいです。使い方は、「いつでもどこでも」は平仮名なのですが、「誰でも」の「誰」が漢字になっているところが多いです。その辺も調べて、できれば入れていただきたいと思います。

〇委員

この望ましい姿を見ると、すごいなと。スポーツがどこでもできる基盤が整うのだと非常に希望を持って、意見を言わせていただきたいと思います。確か前回もスポーツに関して私も色々と意見を言わせていただきました。このようなスポーツという形で、学びとスポーツがメインで言葉が出てくるのですが、生涯学習分野なので、その他の例えば図書館の読書のことなど、そのようなところも少しこの望ましい姿に文言が欲しいと思います。

〇委員長

スポーツ、それから図書、読書なども学びという概念に入っているのかもしれませんが、その意見のところに ICT があって、これも非常に大きく生涯学習に関わってくると思います。ネット社会も含めて、そのようなことがここでどう絡んでいるのかが分かるような文言が良いかと思っているところがあります。人工知能の問題なども含めて、非常に進歩することが予測されるので、その辺を見通した 20 年後が生涯学習に求められるのではないかと思います。

〇委員

まとめて話せるか分からないのですが、学びやスポーツあるいは読書や体験など、委員が先ほどおっしゃったように、もう少し幅広い文言を入れたほうが、生涯学習としてのイメージが湧きやすいかということが一点です。

それから「相互に高め合い、その成果が社会に活かされています」ということが望ましい姿として書くものなのかというのが先ほどから疑問に思っています。反対に、今まで教育分野、子育て分野の中で、そのような環境が整っているという文言をあえて使ったのであれば、それこそ「相互に高め合うような環境が整っています」という、ここでそのような環境、仕組みをきちんとつくっていますというように書いたほうが分かりやすいのではないかとい

う気がします。「活かされています」というと、強制的にそのような学びや体験、それぞれの一人ひとりの趣味、色々な経験をさらに反映せねばならないというようなニュアンスになってしまいます。それも一つですが、そうではない部分もあると思うので、その表現をされたらどうかと思います。

○委員長

そこは社会に活かすというよりも、むしろ自己に活かす、そちらのほうが先にあるような気もします。

○委員

両方あります。

○委員

今のお話にあったように、「その成果が社会に活かされています」というと、社会が主語のイメージなのですが、「その成果を社会に発揮しています」というと、その個人がその社会でいきいきと活動しているという姿が目に浮かんできます。区民としてこれを読んだときに、まちの一部というニュアンスよりも、自分の学んだこと、そしてお互いに学び合って、それが自分の生きがいにつながっているというように持っていくと、生涯教育ということがもっと身近に感じられるのではないかと思いました。

○委員長

色々なデータでいわれていますが、2007 年に生まれた、現在、小学校 5 年生の子供は、107 歳まで生きるといわれています。20 年後はほとんどの人が、3 桁まで生きる社会になるだろうということを考えると、自分を社会や行政に活かしていくことが実現している社会になるのではないかという気がします。そのような見通しを色々なデータベースでも言えるところがあるので、それらを使った生涯教育社会を位置付けたら良いと思いました。

○委員

ICT については、新聞やテレビで 5G（第 5 世代無線移動通信技術）について言われています。スマートフォンにおいて、今の 1,000 倍の能力が発揮できるというようなことが、あと 2 年後にできるという話になっています。そうなると全く社会が違ってくると思います。それがこの 20 年後は明らかに定着しているような状況であると考えれば、例えば子供の教育でも入れられるのか、どこに入るかと思いながら今考えていたのですが、生涯学習の分野でそのようなこともしっかり明記していったほうが良いと思います。なぜそのようなことが基本構想に入っていないのか、逆におかしな話になってしまうような気がします。ネット社会というのは正直どの分野も影響してくると思います。あえてここで話をさせていただ

きますが、その辺を頭に入れて作成すると良いのではないかと思いました。

〇事務局

今の委員からのご指摘は、まさにそのとおりだと事務局としても考えています。ただ、ICTについては生涯学習分野だけではなく、様々な分野に関係してくることですので、その辺を当然念頭に入れたものにしていかなければいけないというところは、事務局としても今後引き続き検討していきたいと思っています。

＜パートナーシップ分野＞

〇委員長

それでは資料４のパートナーシップ分野です。

〇委員

台東区の強みを生かす視点で、例えば４行目「また、支え合いを基調とする地域性」というところを「昔ながらの下町の」など台東区らしい人間くさい助け合いというような表現をプラスしていただくと、台東区らしさが出るのかと思いました。私も 20 年後をイメージしたときに、いきいきと生活しているというのが本当にあってほしい社会だと思います。いきいきだけではなくのびのび、安心して、そして虐げられることもなくということに結び付くと思います。自分の個性のままでというような、そのような社会であってほしいです。

それから、その後の「様々な場面」が、何回か考えてもイメージが出てこないのと、４行目の「多様な主体による協働」というところも、色々あるのだろうというのは分かるのですが、これだという固有名詞は出さなくても、もう少しイメージしやすいような言葉を選んだほうが良いかと思います。「様々」や「多様」だけに頼らず、大枠で具体例でも良いのですが、何かそこを考えたいと思いました。

〇委員長

確かに「多様」や「様々」という言葉が少し使われ過ぎという気がします。どうでしょうか。他に委員の皆さんいかがですか。どうぞ。

〇都市交流課長

今「多様」というお話がありました。このパートナーシップの分野については、いわゆるダイバーシティ（多様な人材を積極的に活用しようという考え方）というご意見もあったと思いますが、多様性という言葉が一つキーワードになっています。いわゆるマジョリティ、マイノリティのような話がその中にも出てきまして、「多様の」という言葉がどうしても多くなってしまうのは、若干仕方ないというところもあります。先ほどご意見があったような、具体的に何か浮かぶようなものが必要なのかという感じはしますが、パートナーシップ分野については、先ほど申し上げた「多様」「様々な」というような切り口は外せないというのが私の補足です。

〇委員長

この 20 年後の「多様」がかつての「多様」と違うところは、価値を乗り越えるということだと思います。今までは、どちらかというと、同質なものを並べて多様にするという考え方だと思います。これからは異質なものをつなげて次の分野をつくる、よく哲学の言葉でい

うアウフヘーベン（矛盾するものを更に高い段階で統一し解決すること）ということになると思います。違ったものに気付いて違った概念をつくる、そのような多様性だと思います。それが今いわれている国際社会、ダイバーシティという表現だろうと思います。その辺が分かるように、確かに台東区は下町の文化で粋な心があったわけですが、その粋というのが新しい諸外国の文化と合わさったときに違った粋に変わり、また台東区の新しい粋が出てくるのだろうと思います。それが新たな多様性ではないかという気がしています。

○委員

どうも先ほどからすっきりしないというのが表題の「望ましい姿」、この表現が何となくスッときません。台東区らしく言うと「目指す姿」、そのほうがはっきりするのではないかと思います。私からするとそのほうがすっきりして分かりやすくて良い、そのような感じがします。

○委員長

ここのところは、他の分野も「望ましい」できているわけですね。「望ましい」というと、確かに正しい姿を求めるようなところがあります。正しい姿というのは個人によって価値が違うところがあるので、正しいことを言っても「俺はへそを曲げたい」、という考え方も当然あって良いわけですから、そういう意味では「目指す」ということも分かるような気がします。私たちが教育分野で子どもたちに「正しい人間になれ」、「望ましい人間になれ」と言うと、今の子供たちはへそを曲げるのです。それはむしろ良いことで、ある意味では、望ましい、正しいというのは、教育的には先生として、学校としては求めるけれども、そうではない部分があります。それを乗り越えるところに子供の成長があります。そのように考えると、望ましいというと、では誰が望ましいかというと、当然役所の人たちが考える望ましさでもないし、大人が考える望ましさでもない、子供が考える望ましさでもない、人間の生命体が考えているようなものがあるような気がします。そのような意味では、正しいあるべき姿を求めるというと、少しうさんくさくなる、そのように感じるところがあります。

○委員

今おっしゃったこともとてもよく分かるのですが、私が理解したところでは、ここで今議論しているのは 20 年後に実現している状態のことを指していて、20 年後にさらに目指すというと、もっとその先という、50 年後なのか 100 年後なのか、どこまで実現したら良いのかということが必ずしも明確にならない可能性もあるので、それであれば今の望ましい姿でもあまり理解からは外れていないような気もします。ただ、もちろんおっしゃっている趣旨はとてもよく分かります。望ましいというと、確かに誰が考えていて、どのように理解できるのかというのがやや抽象的というご指摘は私としても理解しています。

〇委員長

今の委員の話を伺いながら、私も意見を言わせてもらうと、「望ましい」という言葉を思い切って取っても良いかもしれません。「20 年後の姿」と言ってしまって、その姿を決めるのは区民自身、あなたが決める、そのようなスタンスでも良いような気がします。あなたがこの台東区をつくってくださいという、そのようなメッセージが 20 年後の姿に求めて良いのではないかという気がしました。

〇委員

先ほどあった話で、「多様な」というところを「バラエティ豊かな」など個性が光るような表現はどうかと思いました。多文化なので多様は入れたほうが良いと思うのですが、個性が一つのポイントとなるような「バラエティ豊か」という言葉を使ったほうが、少しポジティブ過ぎてカジュアルかもしれませんが、そのぐらいの感じでも想像しやすいかと思います。「バラエティ豊かな主体による協働」と使った場合は、その前の「様々な場面」を「多種多様な場面で」とすると良いと思います。いろいろな種類の場面が出てくると思います。日本人が外国人の方に助けられる場面もあるでしょう。逆に外国人同士で後から来た外国人を助けるというのもあるでしょう。障害をお持ちの方がいろいろ今後の生涯学習で誰もが取り組める新しいスポーツの提案をするということも出てくるかもしれません。そのようなことを考えたときに、「多種多様な場面で」というのと「バラエティ豊かな」という個性を明るく捉えた表現であると、20 年後が楽しみだと思いました。

〇委員長

個がしっかりしていなかったら、また、アイデンティティの確立がなかったら、このパートナーシップは生まれないというベースの上でのパートナーシップだろうと思います。そのようなことが生かされる表現が良いという気がしました。

〇委員

20 年後の望ましい姿のパートナーシップの分野で、その人らしい表現と先ほど言っていましたが、個性というように規定しなくても、その人がその人らしくつながり合える、自分らしさを出すことによってつながり合える、そのような地域づくりというようなイメージがあります。「活躍できる地域社会」となっていますが、20 年後は統計上かなり高齢化していますので、その人らしい生き方を表現することによってつながり合える社会が重要です。車椅子の方もいらっしゃれば、いろいろなハンディのある方もいらっしゃれば、高齢ですぐ動けない方もいる。それを生涯学習の分野で表現していくのか、パートナーシップの分野で表現していくのか、どちらが良いのだろうかと先ほどから思っていました。学んだことをその人らしく表現する場を持てる台東区なのか、その人らしい高齢化やさまざまな立場の人

が自分らしさをそのまま出すことによってつながり合える社会、どちらに入れたほうが良いのか思いながら考えていたところです。無理をしなくても自分を出せる社会であってほしいと思うところです。

〇委員長

無理をしないで自分を活かせる、ということだと思います。その人らしさなど、20 年後というのは、社会との関わりの中で、個の在り方が問われます。個が安定しないと社会に還元できません。それが生涯学習やパートナーシップに活かされた言い方にされると、区民中心の姿が出てくるのではないかと理解したところです。

今４つの分野が終わってきたところですが、改めて見直していただいて、これも言っておけば良かったなどというものがあれば補足をお願いしたいと思います。

〇委員

見直してというよりは、今までの議論を伺っていて、全体的に「活躍する」「逞しく」「高め合う」などというよりも、これから 20 年先は「個を生かす」「一人一人の姿に合わせたあるがままの」など、全体的にそのようなニュアンスでの教育であり学びというような表現に全体的にしていくのが良いかと議論を聞きながら思っていました。

〇委員長

今の話を聞きながら、20 数年前に学校教育で、「特殊学級」という言い方が「心身障害学級」あるいは「特別支援教育」になったプロセスがありました。そのときに、以前の特殊学級という言い方をした、あるいは特殊教育という言い方をした専門家の方が、これからは社会全体が障害者の人が暮らしやすい社会そのものをつくり、障害者の人が当たり前になる、その社会が望ましい、だから障害があることに特別に配慮する必要はない、障害者そのものが生きるのが社会なのだ、という言い方をされていました。私どもが教育を考える中でも、障害の人に何か援助してやろう、何か特別扱いしようというのは、むしろ発想が違うということを指摘してくださったのです。そのような意味で、今委員がおっしゃったように、20 年後は、ある意味では台東区に住んで幸福な感じが味わえる、そのようなトーンが全体に流れると良いということです。個が生きる、一人一人が生きるような社会、あるがままに自分を活かすなど、ある意味でゆったりした感じの表現が大事だという指摘だったかと思います。

私のほうから一点、最後のパートナーシップのところで、細かいことで恐縮なのですが、新しい住民と古くからいる住民が協力できる、この「古くから」もそうですが、後ろのほうに「新と古」と書いてあります。これは旧という意味では駄目ですか。あるいはこの「新と古」を鍵括弧でくくりたいという気がします。この「新」と対の言葉は「古」なのかと考えてしまいました。意味としては分かるのですが、どうでしょうか。

〇事務局

こちらは委員からの意見をベースに書かせていただいているところがあって、このような表現の仕方になっています。こちらはあくまで意見としてまとめたものですので、その辺の調整は可能です。また調整をさせていただきたいと思います。

〇委員

「新」と「古」のところも、台東区らしさなので、どのような表現をするか考えて残していただきたいポイントだと思います。対になる「新と古」としても良いですし、「新」が例えば進化であれば「進化と伝統」など、新しいものを表すものと古を表すものにして、台東区が今まで歴史を見て受け入れてきた新しいものと守ってきたものの固有名詞を入れていくというようなことも、台東区民であれば分かりやすいかと思いました。

〇委員長

小委員会３回にわたって皆さんから貴重な意見をいただき、また我々はある意味で勝手な意見を申し上げさせていただきましたが、事務局でうまく取りまとめていただきましたことを感謝申し上げたいと思います。

もし意見がないようでしたら、本日の議論はこれまでにさせていただければと思います。よろしいでしょうか。また皆さん何かありましたら、事務局に申し上げていただければと思います。本日いただきました意見を 20 年後の姿として、他の分野とも関係しますので、今後また事務局と一緒に調整してまいりたいと思います。事務局と私の間で調整をして、また次回提案させていただくという進め方でよろしいでしょうか。至りませんが、皆さんの意見を反映しながら調整をさせていただければと思っています。３回にわたって貴重なご意見をいただきましたことを感謝申し上げます。進め方がつたなくてご迷惑をかけましたが、非常に良い勉強をさせていただきました。感謝申し上げます。

３．その他

〇事務局

－次回審議会についての説明―

４．閉会

〇委員長

貴重な意見を３回にわたりましていただきました。感謝申し上げます。これにて第３回小委員会を終了したいと思います。委員の皆さま、事務局の皆さま、ありがとうございました。

（午後９時００分　閉会）